

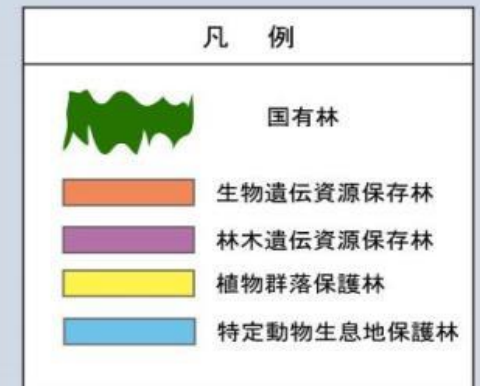
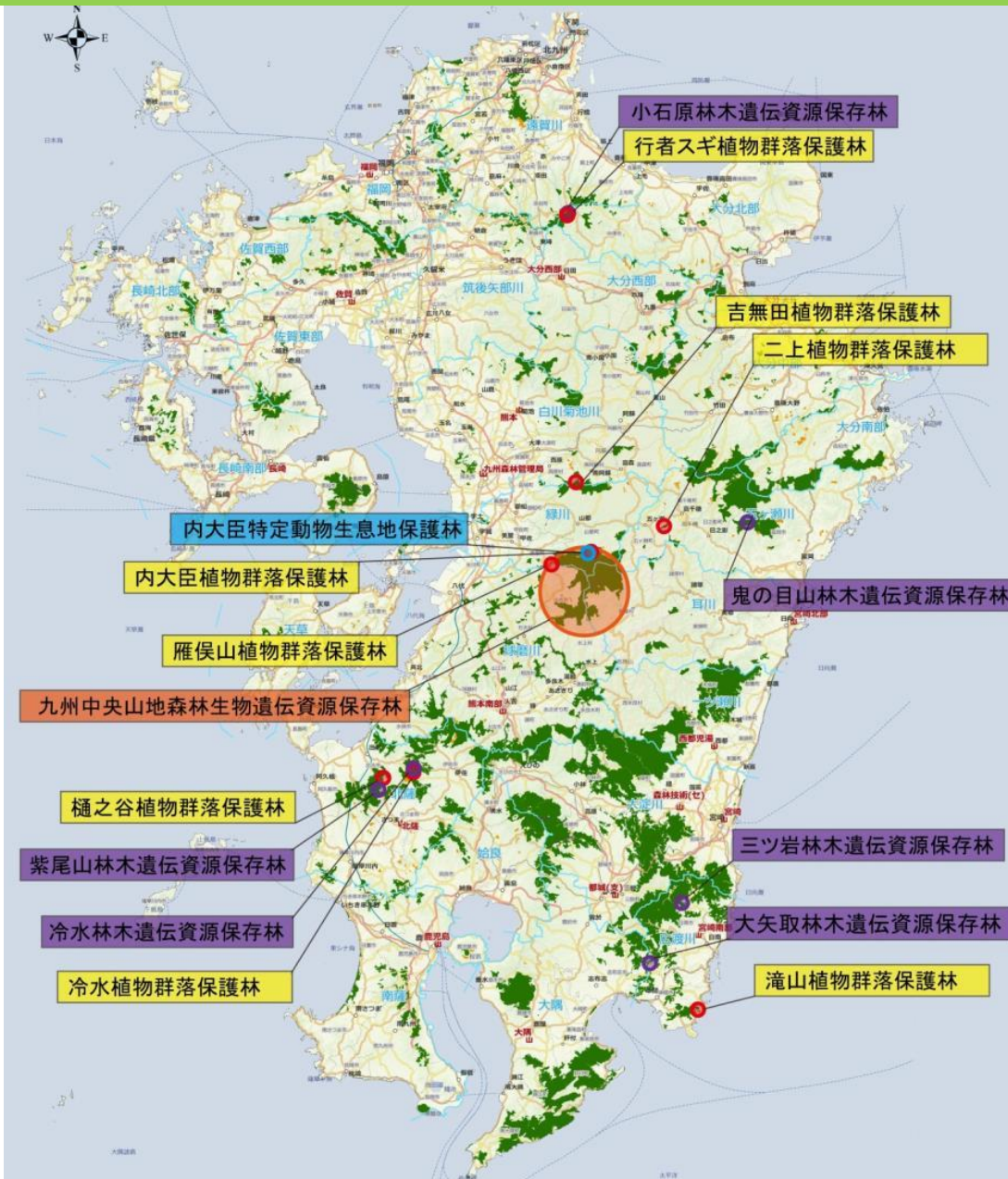
平成29年度 保護林モニタリング調査結果

保護林管理委員会報告

平成30年 2月26日

株式会社 九州自然環境研究所

1. 調査実施箇所



2. 調査実施保護林

区分	森林生物遺伝資源保存林	林木遺伝資源保存林	植物群落保護林	特定動物生息地保護林
	きゅうしゅうちゅうおうさんち 九州中央山地	おにのめやま 鬼の目山	ないだいじん 内大臣	ないだいじん 内大臣
		こいしはら 小石原	よしむた 吉無田	
		みついわ 三ツ岩	ぎょうじゃすぎ 行者スギ	
		おおやとり 大矢取	ふたかみ 二上	
		ひやみず 冷水	たきさん 滝山	
		しびさん 紫尾山	ひやみず 冷水	
			ひのたに 樋之谷	
			かりまたやま 雁俣山	

3. 調査項目

区分	森林生物遺伝資源 保存林	林木遺伝資源保存 林	植物群落保護林	特定動物生息地保護林
	森林調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎木調査 ・ 植生調査 ・ 定点写真撮影 ・ 植物相調査 	森林調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎木調査 ・ 植生調査 ・ 定点写真撮影 ・ 植物相調査 	森林調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎木調査 ・ 植生調査 ・ 定点写真撮影 ・ 植物相調査 	森林調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎木調査 ・ 植生調査 ・ 定点写真撮影 ・ 植物相調査
	動物調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ乳類調査 ・ 鳥類調査 ・ 昆虫調査 			動物調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象動物種の生息調査 ・ 関連動物の調査
	利用動態調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数 ・ 利用動態の調査 ・ 定点写真の撮影 			

3. 調査項目

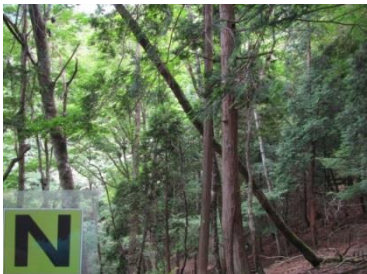
毎木調査：プロット調査にて、
樹木のサイズや生育状態を把握



植生調査：プロット内における
植物の種類構成を把握



定点写真撮影：同一場所で林内写真を撮影



3. 調査項目



シカ被害調査：プロット内及び調査プロットに至るルート周辺でのシカによる被害状況等を記録 被害レベルは簡易チェックシートでも判定

シカ被害レベル判定のための簡易版チェックシート (改訂版 Ver.2)

調査日 _____ 調査者名 _____

調査地点名 _____ 標高 _____ m GPS No. _____ 写真 No. _____

植生タイプ： 植林 常緑広葉樹林 落葉広葉樹林 針葉樹林

地形： 尾根上 斜面 谷

微地形： 平地 傾斜地 凹地 凸地

Start

```

    graph TD
      Start --> Q1{高木の倒伏・立ち枯れが目立つ ※1}
      Q1 -- YES --> L4{植生被害レベル 4}
      Q1 -- NO --> Q2{ササ類の食害による枯死・矮小化 ※2}
      Q2 -- YES --> L3_1{植生被害レベル 3}
      Q2 -- NO --> Q3{ディアラインが認められる林内の見通しが良い(高さ0~1.5m程度) ※3}
      Q3 -- YES --> L3_2{植生被害レベル 3}
      Q3 -- NO --> Q4{林床の草本類はほとんどなく裸地に近い ※4}
      Q4 -- YES --> Q5{高木の枝葉が繁っていて林内が暗いまたは尾根の乾燥地 ※5}
      Q5 -- NO --> L3_3{植生被害レベル 3}
      Q5 -- YES --> Q6{草本・低木(1.5m程度)は忌避植物ばかりが目立つ ※6(調査コードラートの30%以上)}
      Q6 -- YES --> L3_4{植生被害レベル 3}
      Q6 -- NO --> Q7{草本・木本の萌芽に食痕が多いまたは目立つ一見してシカの被害とわかる}
      Q7 -- YES --> L2_1{植生被害レベル 2}
      Q7 -- NO --> Q8{草本・木本萌芽に食痕が散見される、植生は豊かに繁茂}
      Q8 -- YES --> L1{植生被害レベル 1}
      Q8 -- NO --> Q9{草本・木本萌芽に食痕はない植生は豊かに繁茂 ※7}
      Q9 -- YES --> L0{植生被害レベル 0}
  
```

※1 高木は森の樹冠を形成する樹木。シカにより林床の植物が減少すると、乾燥に弱いブナなどが影響を受ける。
 ※2 ササ類はシカの嗜好植物。シカの高密度地域では、スズタケなどがすでに消失している場所も多い。本来ササ類がない場合はNOへ。
 ※3 シカの口がとどく範囲である高さ1.5m程度までの植物がシカから食べられるので、林内の見通しが良くなる。
 ※4 シカの食害が多くなると、シカがそれまで食べなかったものまで食べるので林床植物が減少する。
 ※5 林内が暗かったり、乾燥した場所では、もともと林床に草本類が少ない場所も多い。
 ※6 シカの食害が多くなると、シカの嫌いな植物だけが生き残るため多様性が失われる。数種類の忌避植物だけになってしまう。
 ※7 発達した人工林では林床植生が本来ない場合がある。この項目がNOのときは調査コードラートの周辺にシカによる根刈り、樹皮剥ぎ等の痕跡を探してみる。痕跡がある場合は植生被害レベル3と判断する。

森林植生の状況と対策

被害レベル	森林植生の状況	対策
0	森林の階層構造、種組成ともに自然状態。	安全：維持
1	森林の階層構造、種組成ともに自然状態であるが、構成種に食痕が頻繁に認められる。	要観察：対策の検討
2	森林の階層構造に欠落が生じ始める。種組成に忌避植物の侵入・優占が始まり、自然状態の構成種に変化が生じ始めている。	注意：対策の実施
3	森林の構造に欠落が生じる。低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の構成種とは異なった林分となる。	危機：緊急対策の実施
4	森林の低木層、草本層に加え、亜高木層、高木層等の林冠構成種の一部が枯死し、森林としての階層構造に欠落が生じる。低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の構成種とは異なった林分となる。	

3. 調査項目

動物調査：森林生物遺伝資源保存林、特定動物生息地保護林については**調査を実施**



哺乳類調査状況



鳥類調査状況(定点調査法)



鳥類調査状況(ラインセンサス法)



自動撮影カメラ設置状況



タイマー機能付きICレコーダー設置状況

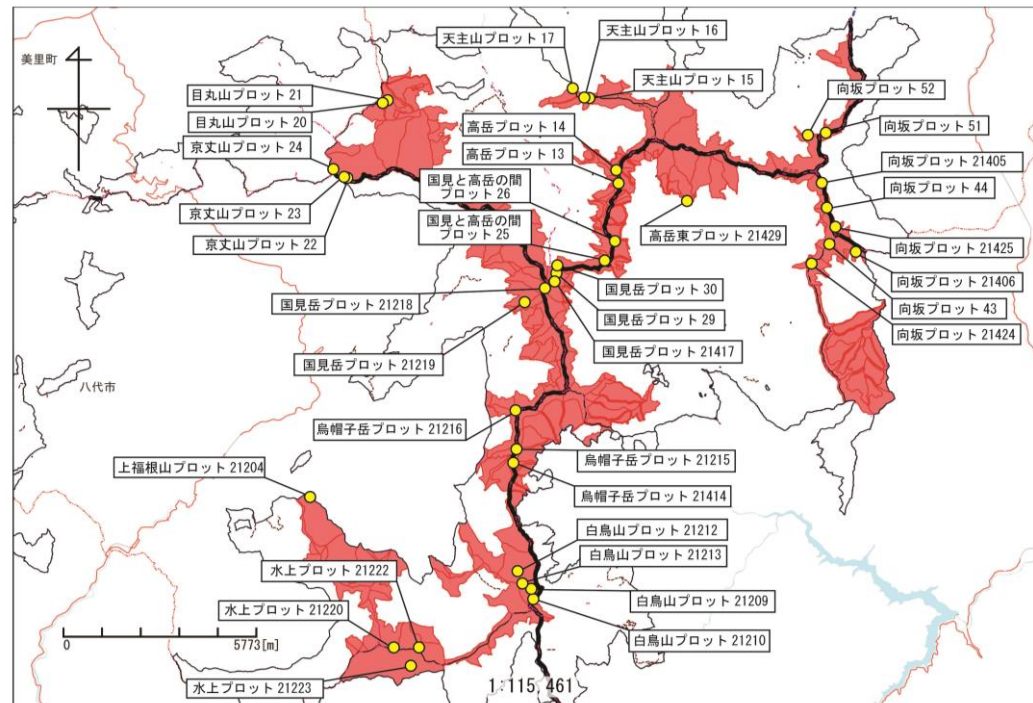


昆虫類調査状況

九州中央山地森林生物遺伝資源保存林

(新名称：九州中央山地生物群集保護林)

保護林の概況	熊本・宮崎の県境一帯に位置し、植生相としてはブナ林がまとまって分布し、湿性タイプのブナ林もみられる。また、特別天然記念物ニホンカモシカ、天然記念物ヤマネ等の希少な野生生物が生息・生育している。
保護・管理を図る対象	落葉広葉樹に係る生物遺伝資源
調査プロット	既存調査プロット39箇所
調査時期	7月～9月（動物調査7月（自動撮影カメラ7月～9月）、森林調査9月）
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・毎木調査 ・植生調査 ・定点写真撮影 ・シカ被害調査 ・動物調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・大半のプロットがスズタケ-ブナ群団であるが、スズタケは急傾斜地の谷部に一部残存、または矮小化しており、シカによる食害の影響を顕著に受けている。・スズタケ-ブナ群団を構成するブナの確認本数に概ね変化はないが、大径木を中心に枯損が見られるため材積が減少している。・サワグルミ群落は国見岳周辺で見られ、確認本数及び材積に概ね変化はなかった。・ツガ群落は水上及び天主山周辺で見られ、確認本数及び材積に概ね変化はなかった。・ブナの後継個体の生育は、プロット21424、26、21219で確認された。・サワグルミの後継個体の生育は、プロット30及び17で確認された。・ツガの後継個体の生育は、プロット21223で確認された。・気象害や病虫害は確認されていない。・37プロット中9プロットで確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは、0～3から0、2～4へと過年度より高くなっている。 (被害レベル4：12プロット、3：22プロット、2：2プロット、0：1プロット)
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・林冠をブナ、サワグルミ、ツガが構成するが、大半のプロットで林床のスズタケが欠落または矮小化している。また、林冠構成種のブナの大径木及び後継個体となる幼木の欠落が目立つ。 林相は極相林となっており保護林の要件を満たしていると評価されるが、このままシカによる被害が継続すれば現状の維持に影響がでることが懸念される・哺乳類、鳥類、昆虫類の希少種が多数確認されるなど、当保護林が希少種を含めた動物相の重要な生息場所となっているが、シカの食害による森林の内部構造の変化により、特に下層植生に依存している動物相の減少が懸念される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理を継続する。・スズタケの残存個体の保護や斜面崩壊防止、林内の乾燥化防止や下層植生回復及び希少種保護のための小規模な植生保護柵の拡充を検討する。・植生保護柵が設置されている箇所での定期的な保守点検に努める。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： オ、鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



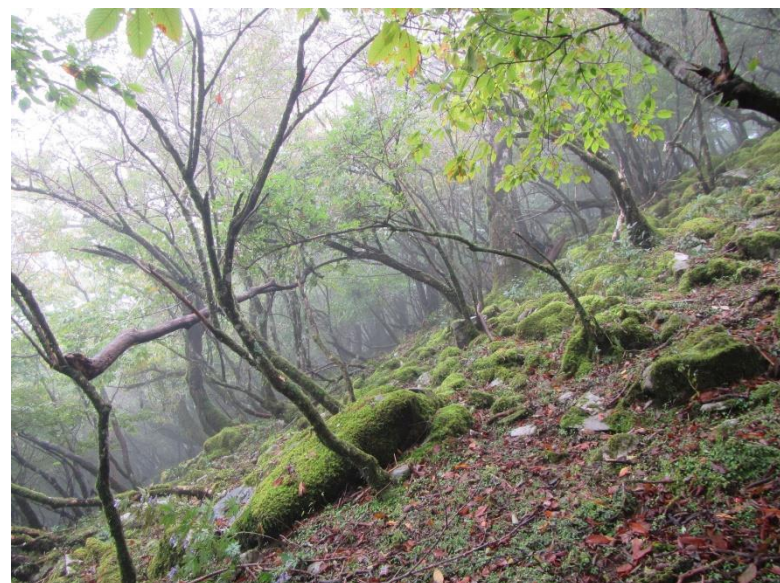
烏帽子岳 プロット21414

特徴：標高1530mのやせ尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は増加、材積は減少
- ・草本層の植被率は減少



京丈山 プロット22

特徴：標高1400mの山腹平衡斜面に位置する石灰岩層山地湿性林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は増加
- ・草本層の植被率は減少

プロット別の結果抜粋



上福根山 プロット21204

特徴：標高1387mのやせ尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 現状維持



向坂・白岩・白岩南 プロット44(植生保護柵内)

特徴：標高1594mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は減少
- ・ 草本層の植被率は増加
- ・ 植生保護柵内は現状維持、植生保護柵の保守点検に努める

プロット別の結果抜粋



向坂・白岩・白岩南 プロット21424

特徴：標高1580mのやせ尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は変化なし
- ・草本層の植被率は変化なし



向坂・白岩・白岩南 プロット21425(植生保護柵内)

特徴：標高1474mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「2：森林の内部構造に変化有り」という注意対策の実施が必要であるレベル

- ・確認本数及び材積は変化なし
- ・草本層の植被率は変化なし
- ・現状維持、植生保護柵の保守点検に努める

プロット別の結果抜粋



国見岳と高岳の間 プロット25

特徴：標高1540mの平坦尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は変化なし、材積は増加
- ・草本層の植被率は増加



国見岳 プロット29

特徴：標高1565mの山腹平衡斜面に位置するサワグルミを含む山地湿性林

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は減少
- ・草本層の植被率は増加

プロット別の結果抜粋



国見岳 プロット21219

特徴：標高1590mの平坦尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は減少、材積は変化なし
- ・草本層の植被率は増加



国見岳 プロット21417

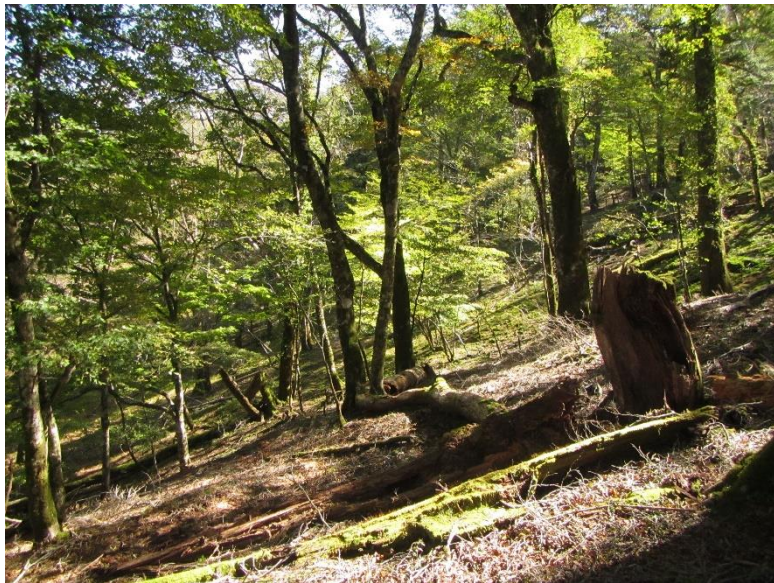
特徴：標高1550mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は減少
- ・草本層の植被率は増加

プロット別の結果抜粋



水上 プロット21222

特徴：標高1430mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は減少、材積は変化なし
- ・草本層の植被率は増加



天主山 プロット17

特徴：標高1127mの山腹凹斜面に位置するサワグルミ群落

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は変化なし、材積は増加
- ・草本層の植被率は増加

プロット別の結果抜粋



白鳥山 プロット21209

特徴：標高1537mの平坦尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は変化なし、材積は増加
- ・草本層の植被率は増加



目丸山 プロット20

特徴：標高1320mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「4：森林が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数は変化なし、材積は増加
- ・草本層の植被率は変化なし

プロット別の結果抜粋

向坂No.5 P0063
テン



Ltl Acorn ○ 073°F 023°C 07/22/2017 14:46:45

高岳No.2 P0333
ノウサギ



Ltl Acorn ▶ 057°F 014°C 08/31/2017 22:49:15

高岳No.2 P0145
アナグマ



Ltl Acorn ◁ 075°F 024°C 07/28/2017 12:58:34

高岳No.2 P0337
イノシシ



Ltl Acorn ▶ 064°F 018°C 09/01/2017 09:53:33

哺乳類

5目7科9種

両生類

2目2科4種

爬虫類

1目2科3種

自動撮影カメラ調査
は向坂・白岩、高岳、
国見岳、白鳥山の4
地域：3目5科6種

全調査方法において
最も多く確認された
種はシカであり、延
べ個体数約680個体

音声録音データ解析
3目4科4種
ムササビの鳴き声が
確認された。

プロット別の結果抜粋

国見No.7 P0424
テン



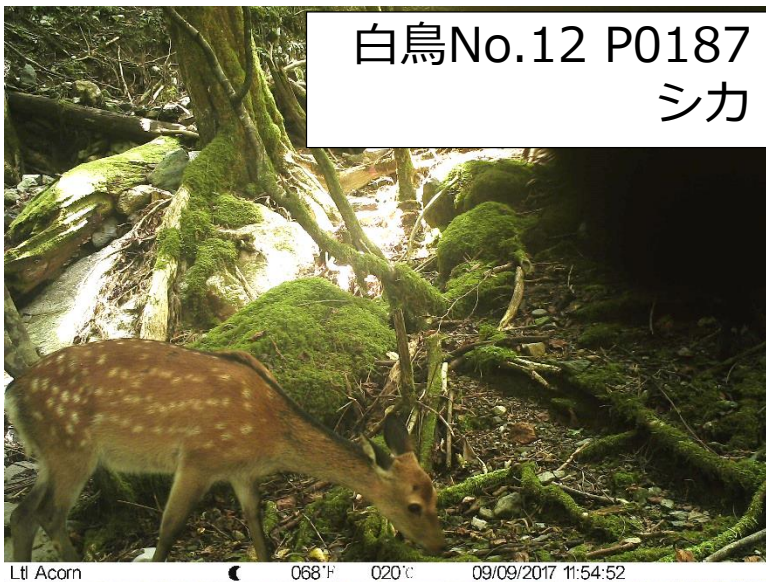
国見No.7 P0423
タヌキ



国見No.8 P0206
シカ



白鳥No.12 P0187
シカ



哺乳類

5目7科9種

両生類

2目2科4種

爬虫類

1目2科3種

自動撮影カメラ調査
は向坂・白岩、高岳、
国見岳、白鳥山の4
地域：3目5科6種

全調査方法において
最も多く確認された
種はシカであり、延
べ個体数約680個体

音声録音データ解析
3目4科4種
ムササビの鳴き声が
確認された。

プロット別の結果抜粋



ホシガラス

鳥類(ラインセンサス・定点・音声録音)

9目21科36種

希少種(ラインセンサス・定点)

留鳥：ツミ、クマタカ、ホシガラス

夏鳥：コマドリ、カッコウ、キビタキ、オオルリ

冬鳥：ルリビタキ

※夏季での確認のため本地域で繁殖している可能性あり

希少種(音声録音)

留鳥：オオコノハズク、フクロウ、トラツグミ

夏鳥：コノハズク

特定外来生物：ソウシチョウ



ヒガラ

プロット別の結果抜粋

高岳No.1 カケス



Lti Acorn (071°F 022°C 07/15/2017 16:27:34

高岳No.1 トラツグミ



) 073°F 023°C 07/28/2017 10:32:07

白鳥No.12 P0014 アオゲラ



Lti Acorn (069°F 021°C 07/18/2017 10:31:22

白鳥No.12 P0032
アカヤマドリ



Lti Acorn) 071°F 022°C 07/27/2017 14:28:54

プロット別の結果抜粋



ヒオドシチョウ
(五ヶ瀬ハイランドスキー場～
向坂山山頂～白岩山山頂)

昆虫類

5目22科49種

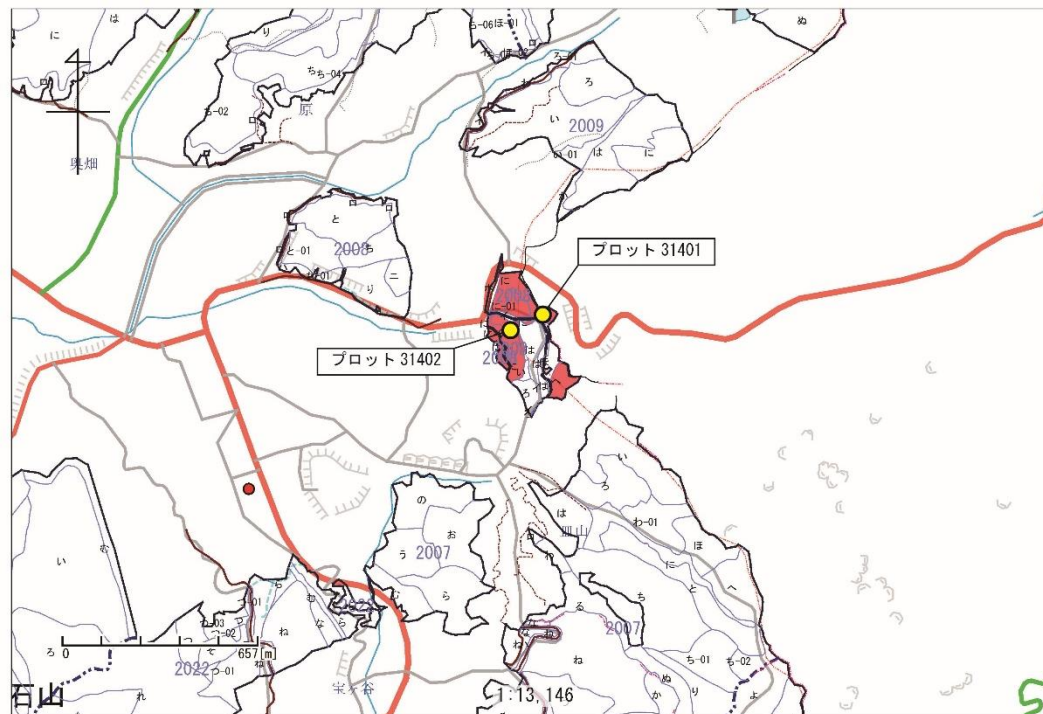
希少種

- 椎葉越～白鳥山山頂：
ウラキンシジミ、ヒメキマダラヒカゲ
- 椎矢峠～高岳山頂：
メスアカミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ウラキンシジミ、オナガアゲハ
- 五ヶ瀬ハイランドスキー場～向坂山山頂～白岩山山頂：
エゾハルゼミ、エゾミドリシジミ、ウラギンヒョウモン、クロサナエ、オオウラギンスジヒョウモン、ヒオドシチョウ

小石原林木遺伝資源保存林

(新名称：小石原スギ遺伝資源希少個体群保護林)

保護林の概況	福岡県東峰村に位置している。林相は通称「行者スギ」と称される老齢のスギ林であり、最高樹齢約500年、現存林分の大部分を構成するものは樹齢約200～300年と推察されている。なお、スギの中には平成12年4月「森の巨人たち百選」に選ばれた「大王スギ（行者の父）」がある。
保護・管理を図る対象	スギ（行者スギ）
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	9月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の確認本数及び材積に、増加が見られた。・保護対象樹種の後継個体の生育は確認されなかった。・気象害や病虫害は確認されていない。・プロット31402のみで確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは、プロット31401では3と過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の本数及び材積は概ね増加しているが、後継個体の生育は確認されていない。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理を継続する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット31401

特徴：標高489mの山腹平衡斜面に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・材積が減少
- ・草本層の植被率は減少
- ・保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない



プロット31402

特徴：標高498mの山腹平衡斜面に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

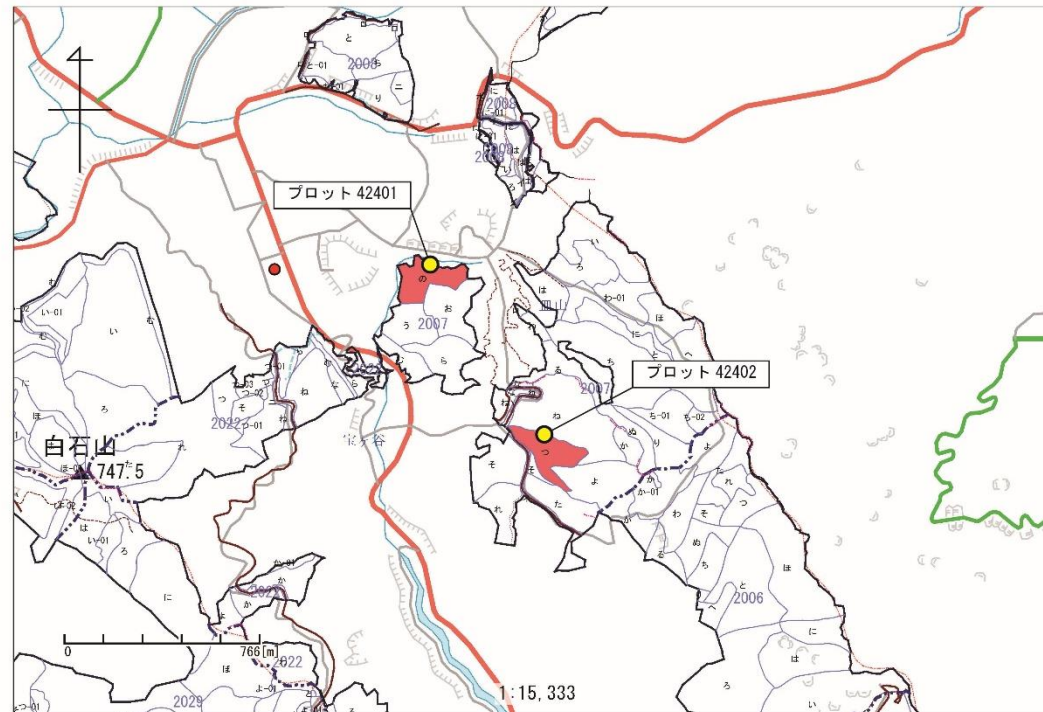
「2：森林の内部構造に変化有り」という注意対策の実施が必要なレベル

- ・確認本数及び材積は増加
- ・草本層の植被率は減少
- ・保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない

行者スギ植物群落保護林

(新名称：行者スギ希少個体群保護林)

保護林の概況	福岡県東峰村の小石原盆地の丘陵上に位置する。林齢170年以上のスギ林で、1ha当たり1,450m ³ の蓄積を有する優良林分である。
保護・管理を図る対象	行者スギ老齢林
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	9月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">保護対象樹種のスギの確認本数及び材積に増加が見られた。保護対象樹種の後継個体は確認されなかった。プロット42201において、平成29年7月に発生した九州北部豪雨災害による土砂崩れが確認された。2プロットともに確認本数及び材積は変化なかった。シカによる林相被害レベルは、2から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">確認された保護対象樹種の本数及び材積は概ね増加し、後継個体の生育は確認されなかった。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">捕獲によるシカの個体数管理を継続する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： オ. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林 キ. その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

プロット別の結果抜粋



プロット42201

特徴：標高488mの平坦尾根に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は変化なし
- ・ 草本層の植被率は減少(土砂崩れが一つの要因)
- ・ プロット内の一部が土砂崩れ
- ・ 保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない



プロット42202

特徴：標高516mの台地に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は変化なし
- ・ 草本層の植被率は変化なし
- ・ 保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない

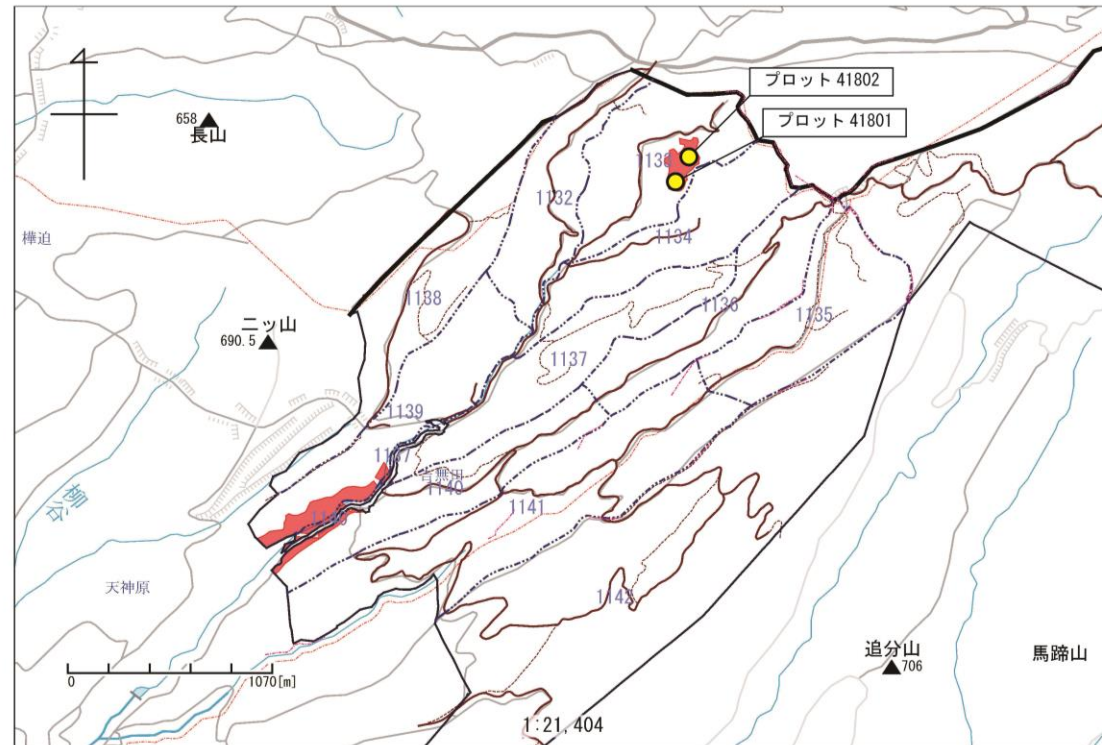
気象害（土砂崩れ）



吉無田植物群落保護林

(新名称：吉無田スギ希少個体群保護林)

保護林の概況	二つ山（標高690m）の南方で八勢川の上流に位置し、阿蘇山南斜面の高原地帯で帯状になっている。林相は、スギ、ヒノキ、サワラの人工林である。
保護・管理を図る対象	スギ老齢林
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	7月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・毎木調査・植生調査・定点写真撮影・シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保護対象樹種のスギの確認本数及び材積は変化なかった。・保護対象樹種の後継個体は確認されなかった。・気象害や病虫害は確認されていない。・2プロットともに確認本数及び材積は変化なかった。・シカによる林相被害レベルは、0から2へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・確認された保護対象樹種の本数及び材積は概ね変化なく、後継個体の生育は確認されなかった。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット41801

特徴：標高752mの山腹平衡斜面に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

「2：森林の内部構造に変化有り」という注意対策の実施が必要であるレベル

- ・ 確認本数及び材積は変化なし
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない



プロット41802

特徴：標高798mの台地に位置するスギ老齢林

シカ被害程度：

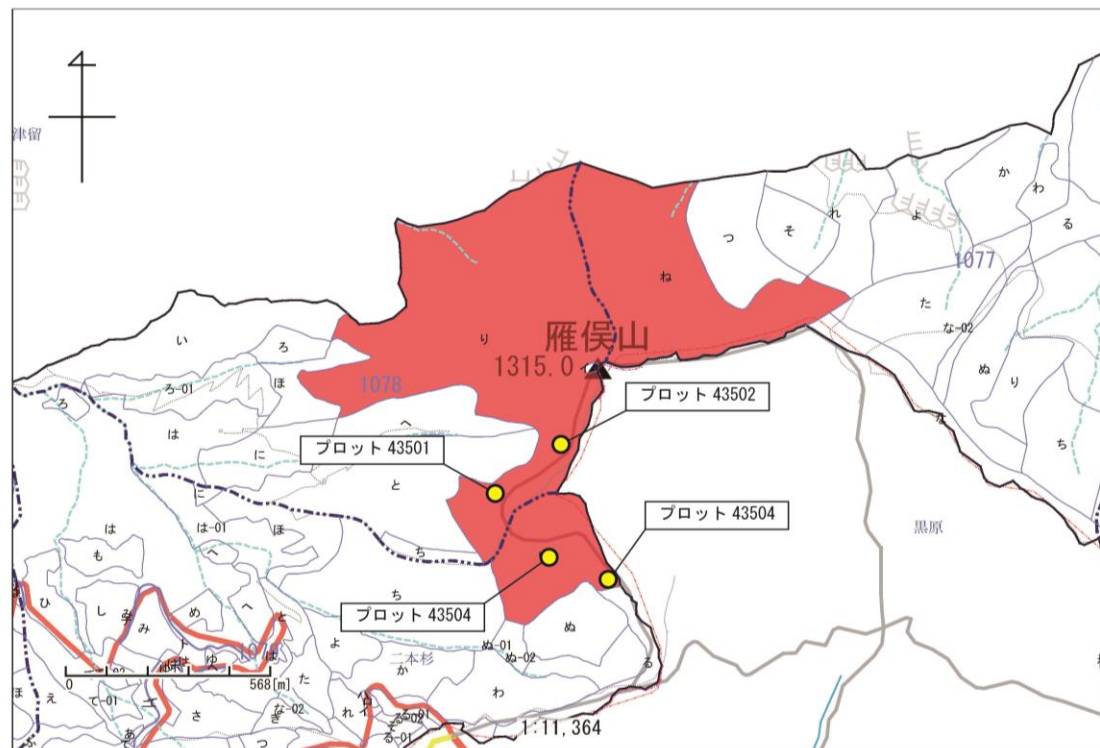
「2：森林の内部構造に変化有り」という注意対策の実施が必要であるレベル

- ・ 確認本数及び材積は変化なし
- ・ 草本層の植被率は変化なし
- ・ 保護対象種であるスギにシカの被害は及んでいない

雁俣山植物群落保護林

(新名称：雁俣山モミ等希少個体群保護林)

保護林の概況	美里町と泉町界の雁俣山（標高1,315m）周辺の標高約1,000m付近に位置している。林相は、主にブナ、ツガを主体とする天然広葉樹林である。
保護・管理を図る対象	モミ、ツガ、その他広葉樹林
調査プロット	既存調査プロット4箇所
調査時期	8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ 保護対象樹種の本数及び材積はプロット43503及び43504で確認され、確認本数及び材積に概ね変化はなかった。・ 保護対象樹種の本数の後継個体の生育が確認された。・ 気象害や病虫害は確認されていない。・ 確認本数は全プロットほぼ変化ないが、材積はプロット43302～43304で増加が見られた。・ シカによる林相被害レベルは1～3と場所によって差があるが、過年度とほぼ変化はない。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・ 保存対象樹種の本数及び材積に概ね増加が見られ、後継個体の生育も確認された。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット43501

特徴：標高1170mの山腹凹斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は変化なし
- ・草本層の植被率は減少
- ・防鹿ネットがあることから現状維持



プロット43502

特徴：標高1187mの平坦尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は増加
- ・草本層の植被率は変化なし

プロット別の結果抜粋



プロット43503

特徴：標高1180mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「2：森林の内部構造に変化有り」という注意対策の実施が必要であるレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット43504

特徴：標高1150mの山腹平衡斜面に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

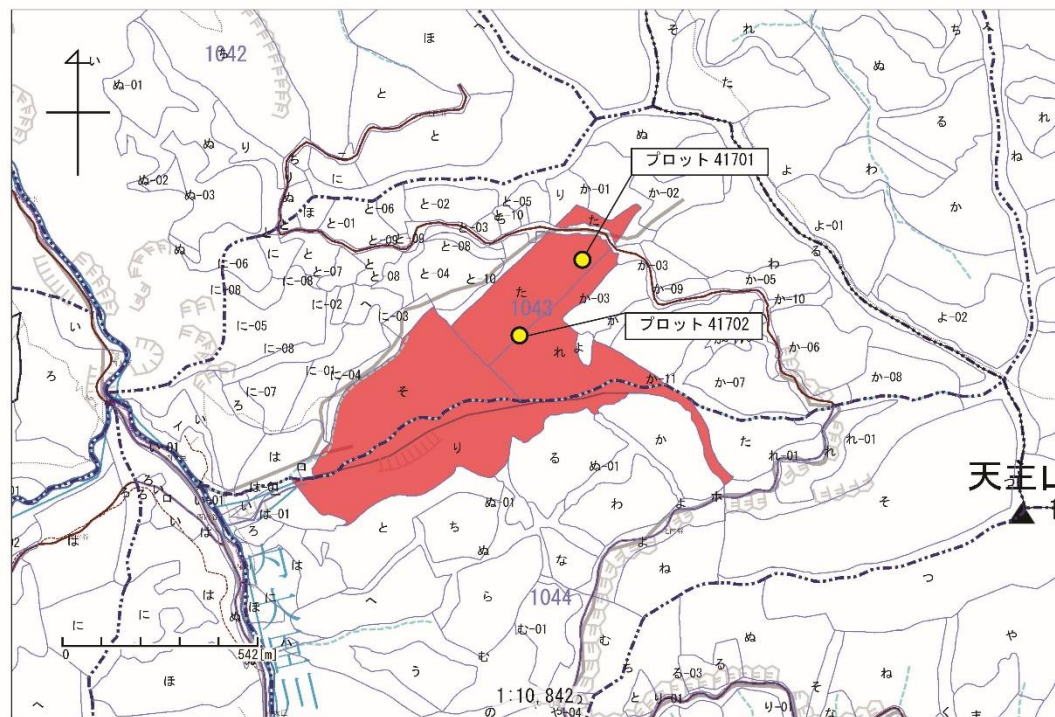
「1：軽微、森林構造に影響なし」という要観察レベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少

内大臣植物群落保護林

(新名称：内大臣モミ等希少個体群保護林)

保護林の概況	九州中央山地国定公園内の天主山（標高1,494m）の西方にあり、標高600m～800mに位置し、西面の緩斜地である。林相は、上部はモミ、ツガが多く、下部はモミ、ツガ、ケヤキ、アカガシ、ウラジロガシ、クリ、ミズメ、カエデ等（160年生以上）の優良な針広混交天然林である。
保護・管理を図る対象	暖帯上位植生の代表的林相
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	9月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・モミ、ツガ、ケヤキ、ウラジロガシ、クリ、イタヤカエデといった暖帯上位植生構成種が確認され、これらの確認本数及び材積に増加が見られた。・保護対象樹種の後継個体として、モミの生育が確認された。・気象害や病虫害は確認されていない。・2プロットともに材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは3と、過年度から変化はなく高い状況が続いている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット41701

特徴：標高985mの山腹平衡斜面に位置する針広混交天然林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数は減少、材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット41702

特徴：標高945mの平坦尾根に位置する針広混交天然林

シカ被害程度：

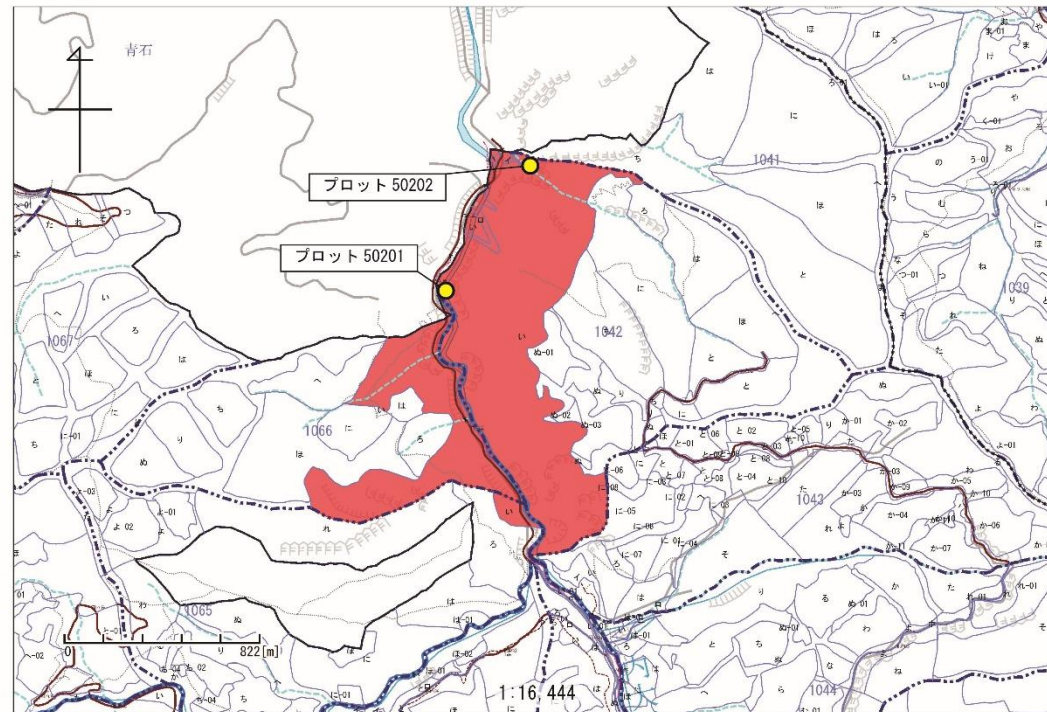
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少

内大臣特定動物生息地保護林

(新名称：内大臣ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林)

保護林の概況	国見岳（標高1,739m）北側の一角で、山都町の標高600m～800mの西側に面する急傾斜地に位置している。林相は、モミ、ツガ、ケヤキ、アカガシ、ウラジロガシ、クリ、ミズメ、カエデ等を主体とする針広混交天然林である。
保護・管理を図る対象	ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	7月～9月（動物調査7月（自動撮影カメラ7月～9月）、森林調査9月）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査・ 動物調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地が保護目的であり、本種は分校跡付近の大径木に着生したシシンランに縄張りを張る雄 1 個体と産卵に訪れた雌 1 個体の計 2 個体を確認した。・ゴイシツバメシジミの食草であるシシンランは、プロット50201で 1 株、プロット50202で 4 株(ウラジロガシに着生)の着生が確認された他、内大臣林道の崖地や内大臣川沿いの大径木にも着生が確認され、開花及びつぼみをつけた個体も確認された。・ヒモラン 2 株(シシンランと同じウラジロガシに着生)及びナゴラン 1 株の着生も確認した。・気象害や病虫害は確認されていない。・2プロットで確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは、0~1から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・ゴイシツバメシジミの食草であるシシンランは着生種のため、シカによる食害は確認されず、生育状態は良好であった。 <p>ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地について、現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしているとして評価される。</p> <p>しかし、シカの個体数増加に起因する林床植生が衰退や森林の内部構造の変化が、ゴイシツバメシジミを始めとした動物相へ与える影響が懸念される。</p>
保護・管理案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： ウ. 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林 オ. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット50201

特徴：標高500mの崖錐に位置するツクバネガシ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は減少
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット50202

特徴：標高470mの崖錐に位置するツクバネガシ群落

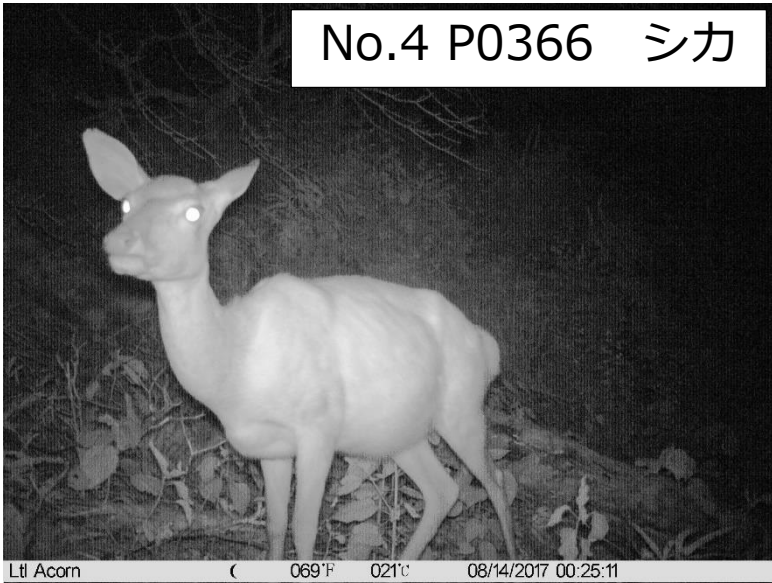
シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少

プロット別の結果抜粋

No.4 P0366 シカ



No.3 自動撮影カメラ設置環境

No.4 P0505 シカ



No.4 自動撮影カメラ設置環境

哺乳類

3目4科4種

両生類

1目1科1種

爬虫類

1目1科1種

自動撮影カメラで撮影された9割以上をシカが占めた。

プロット別の結果抜粋



シジュウカラ

鳥類

2目7科8種

希少種及び特定外来生物は、確認されなかった。



ゴイシツバメシジミ♂
(手前はシシンラン)

昆虫類

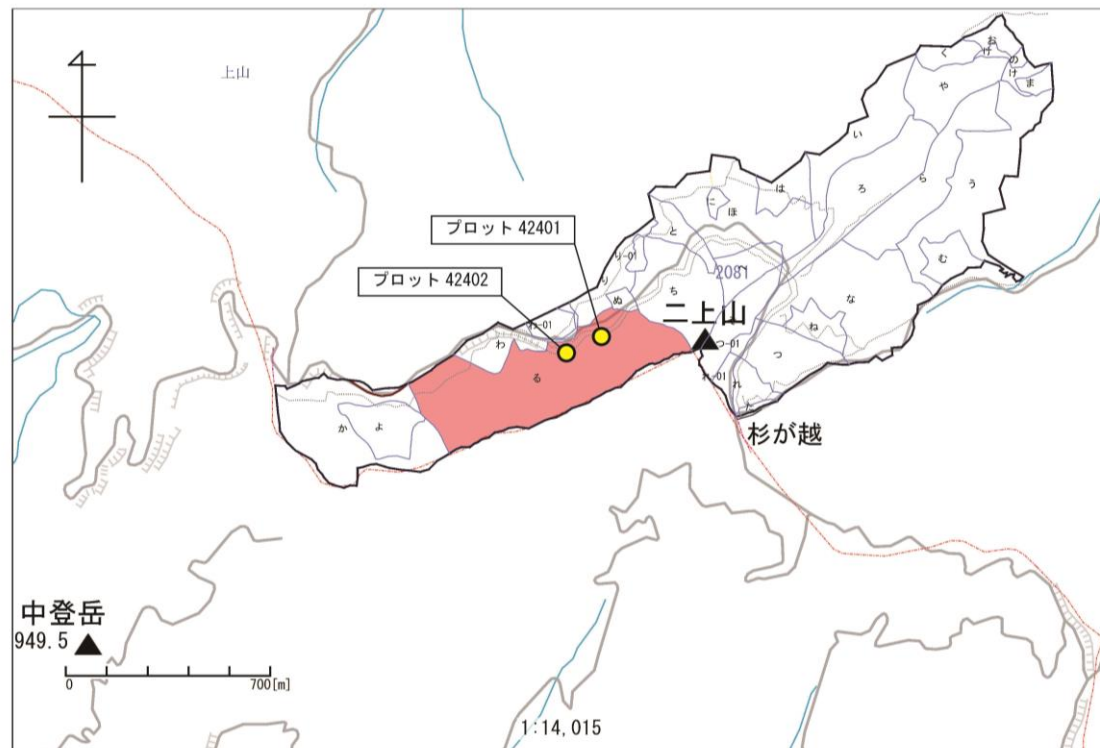
9目29科49種

希少種として、ゴイシツバメシジミ、オナガシジミ、オオムラサキ、ミズスマシ(保護林外)が確認された。

二上植物群落保護林

(新名称：二上ケヤキ希少個体群保護林)

保護林の概況	高千穂町と五ヶ瀬町界で中登岳（標高949m）北東に位置し、広域基幹林道（宮崎県北六峰街道）が横断している。標高800m程度の東急斜面である。林相は、ケヤキが優占する高木夏緑広葉樹林帯で、ツガの他にブナ、カエデ、ミズナラ等の広葉樹が生育する。
保護・管理を図る対象	ケヤキ天然生林
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



プロット別の結果抜粋



プロット42401

特徴：標高867mの平坦尾根に位置するケヤキ天然林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット42402

特徴：標高863mの山腹平衡斜面に位置するケヤキ天然林

シカ被害程度：

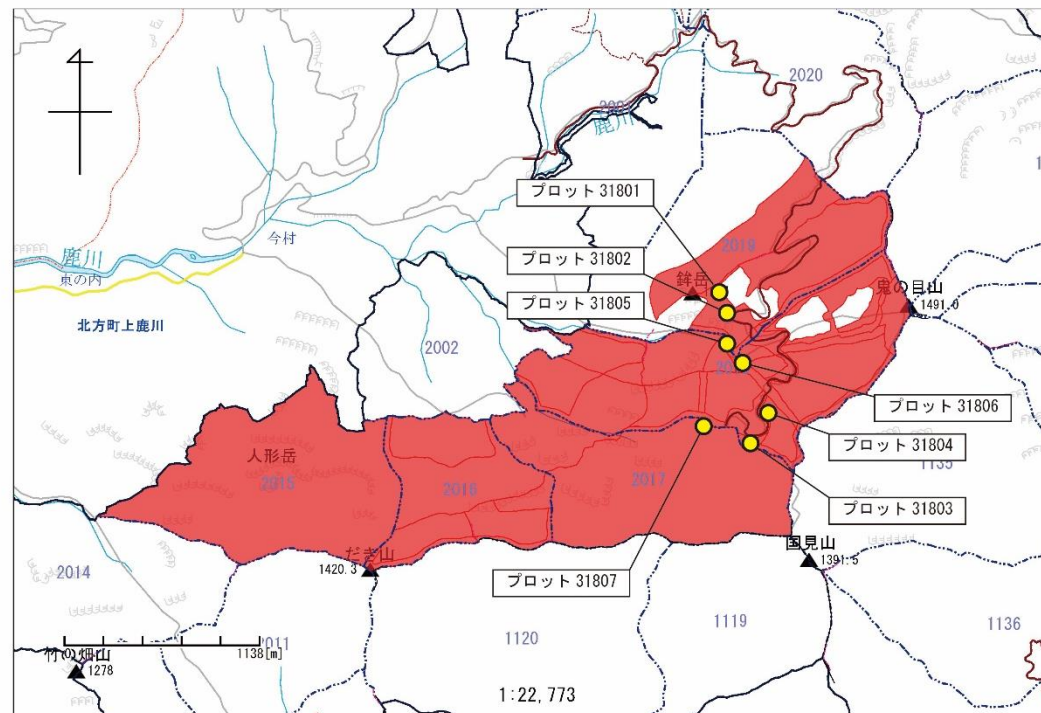
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は増加

鬼の目山林木遺伝資源保存林

(新名称：鬼の目山生物群集保護林)

保護林の概況	宮崎北部に位置している。林相はスギ・アカマツ、ヒメコマツ、アカシデ等の針葉混交林であり、林内に生息するスギは天然性である
保護・管理を図る対象	スギ、アカマツ、ヒメコマツ、アカシデ等
調査プロット	既存調査プロット7箇所
調査時期	9月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ 保存対象樹種の確認本数及び材積に、増加が見られた。また、後継個体の生育が確認された。・ 気象害や病虫害は確認されていない。・ 7プロット全てで材積に増加が見られ、確認本数も5プロットで増加が見られた。・ シカによる林相被害レベルは、1プロット以外のプロットでは全て「レベル3」と過年度より高くなっている。・ スズタケは平成26年に開花が確認されており、今回調査において全域的な枯死が確認された。・ 植生保護柵内に位置するプロットではシカの被害レベルが「レベル0」となっており、ササユリなどの希少種が確認された。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・ 保存対象樹種の本数及び材積は概ね増加しており、後継個体の生育が確認されている。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・ シカの捕獲による個体数管理を継続する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： オ. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林 キ. その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

プロット別の結果抜粋



プロット31801

特徴：標高1241mのやせ尾根に位置するツガ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・材積が増加
- ・スズタケの枯死により草本層の植被率は減少



プロット31802

特徴：標高1308mのやせ尾根に位置するツガ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数及び材積は増加
- ・スズタケの枯死により草本層の植被率は減少

プロット別の結果抜粋



プロット31803

特徴：標高1246mの平坦尾根に位置するスズタケ-ブナ群団

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数は減少した一方、材積は大幅に増加
- ・ 植被率や種数にほとんど変化なし



プロット31804

特徴：標高1244mの山腹平衡斜面に位置するミズナラ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ スズタケの枯死により草本層の植被率は減少

プロット別の結果抜粋



プロット31805(植生保護柵内)

特徴：標高1129mの山脚浸食面に位置するミズナラ群落

シカ被害程度：

植生保護柵内に位置するため、「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ スズタケの枯死により草本層の植被率は減少
- ・ 植生保護柵の保守点検に努める



プロット31806

特徴：標高1113mの山脚浸食面に位置するミズナラ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ スズタケの枯死により草本層の植被率は減少

プロット別の結果抜粋



プロット31807

特徴：標高1237mの山腹凹斜面に位置するミズナラ群落

シカ被害程度：

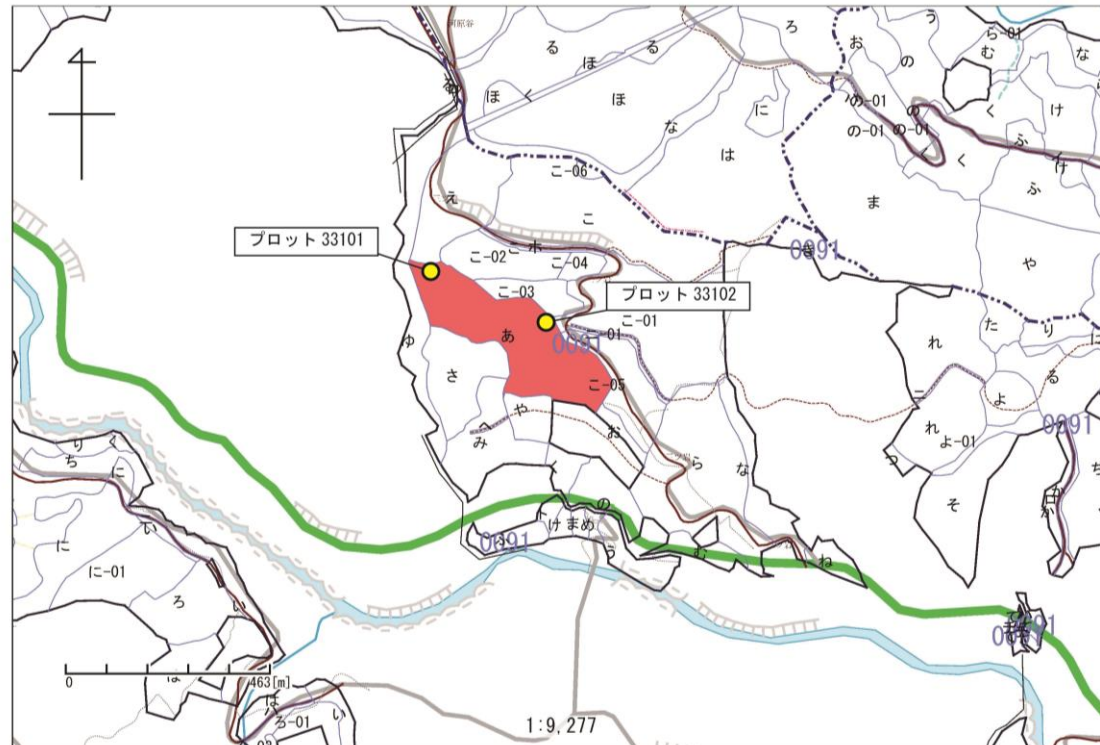
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 急傾斜地の谷部に位置するため草本層の植被率は減少

三ツ岩林木遺伝資源保存林

(新名称：三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林)

保護林の概況	宮崎県南部北郷町に位置している。林相はスギ植林で、400年の歴史を有する肥沃林業唯一の古い年代の造林地である。
保護・管理を図る対象	オビスギ
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の材積はやや減少したものの、確認本数に増加が見られた。・保護対象樹種の後継個体の生育は確認されなかった。・気象害や病虫害は確認されていない。・プロット33102のみで確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは両プロットともに0と、過年度と同じレベルであった。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の本数は概ね増加しているが材積はやや減少しており、後継個体の生育は確認されていない。 現状は概ね維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・自然の推移を見守る方針でよいと考えられるが、周辺地域のシカ個体群の動向を把握する。
モニタリング間隔案	10年 ※選定理由： 上記に該当しない保護林（モニタリングが行われない実施計画策定の周期においては、実施計画策定作業の前年度までに森林官等による巡視、定点撮影、遠隔地については空中写真の確認等の簡素な現況調査を行う）

プロット別の結果抜粋



プロット33101

特徴：標高342mの山腹平衡斜面に位置するスギ植林

シカ被害程度：

「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・材積が減少
- ・草本層の植被率は変化なし
- ・現状維持



プロット33102

特徴：標高277mの山腹平衡斜面に位置するスギ植林

シカ被害程度：

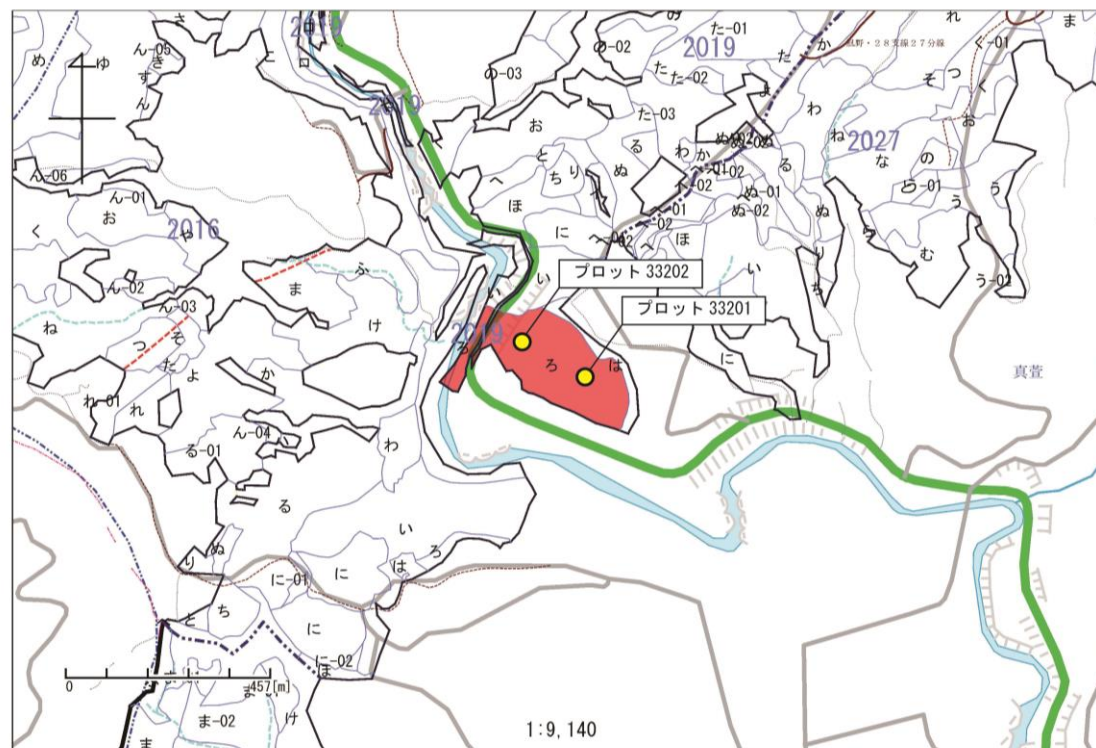
「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・確認本数及び材積は増加
- ・草本層の植被率は減少
- ・現状維持

大矢取林木遺伝資源保存林

(新名称：大矢取クスノキ等遺伝資源希少個体群保護林)

保護林の概況	大矢取川に接した位置にある。林齢350年程度のクスノキの大木が群生している中に、イチイガシ、タブノキ、シイ等も混入し、多様な植生を有している。
保護・管理を図る対象	クスノキ、イチイガシ
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の確認本数及び材積にほとんど変化はなかった(イチイガシが1本枯死)。・保護対象樹種の後継個体の生育は確認されなかった。・気象害や病虫害は確認されていない。・プロット33202のみで確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは両プロットともに0と、過年度と同じレベルであった。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の本数及び材積に概ね変化ないが、後継個体の生育は確認されていない。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・自然の推移を見守る方針でよいと考えられるが、周辺地域のシカ個体群の動向を把握する。
モニタリング間隔案	10年 ※選定理由： 上記に該当しない保護林（モニタリングが行われない実施計画策定の周期においては、実施計画策定作業の前年度までに森林官等による巡視、定点撮影、遠隔地については空中写真の確認等の簡素な現況調査を行う）

プロット別の結果抜粋



プロット33201

特徴：標高342mの山腹平衡斜面に位置するスギ植林

シカ被害程度：

「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は変化なし
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 現状維持



プロット33202

特徴：標高277mの山腹平衡斜面に位置するスギ植林

シカ被害程度：

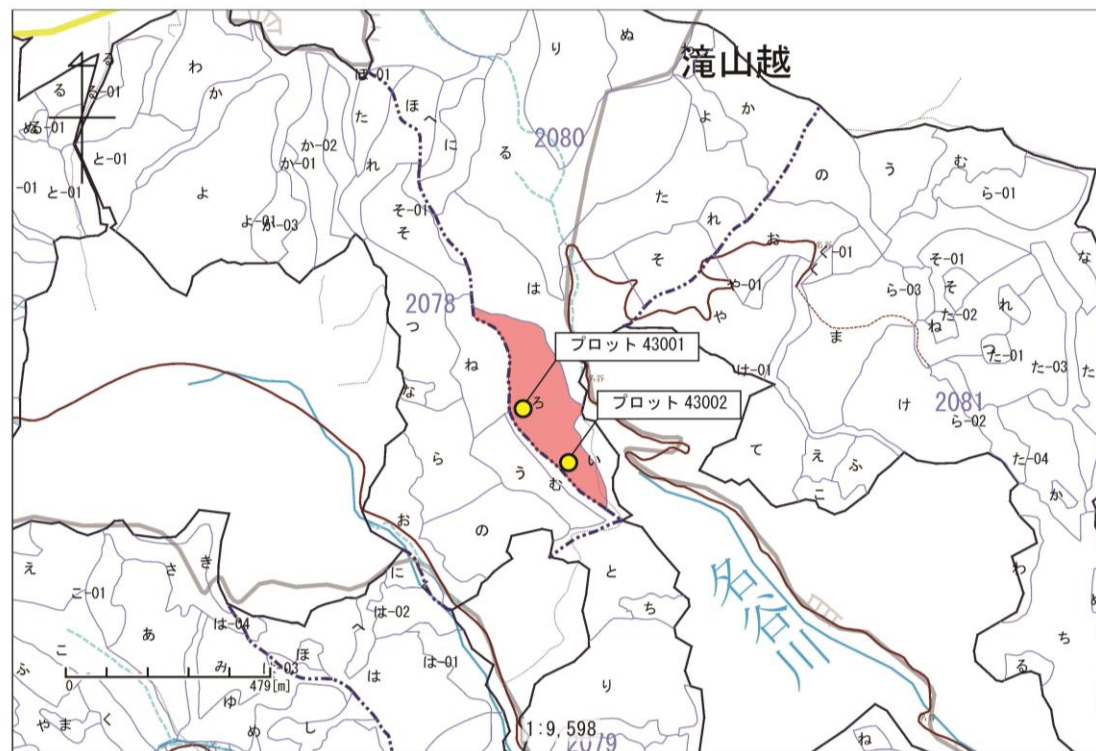
「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 現状維持

滝山植物群落保護林

(新名称：滝山スダジイ等希少個体群保護林)

保護林の概況	宮崎南部に位置し、西方には高畑山（518m）がある。林相は、アラカシ、シイ類その他の天然生広葉樹林である。
保護・管理を図る対象	滝山神社風致林
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	8月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・毎木調査・植生調査・定点写真撮影・シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の確認本数及び材積に増加が見られた。・保護対象樹種の後継個体の生育も確認された。・気象害や病虫害は確認されていない。・2プロットともに確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは両プロットともに0と、過年度と同じレベルであった。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・保存対象樹種の本数及び材積に増加が見られ、後継個体の生育も確認された。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・自然の推移を見守る方針でよいと考えられるが、周辺地域のシカ個体群の動向を把握する。
モニタリング間隔案	10年 ※選定理由： 上記に該当しない保護林（モニタリングが行われない実施計画策定の周期においては、実施計画策定作業の前年度までに森林官等による巡視、定点撮影、遠隔地については空中写真の確認等の簡素な現況調査を行う）

プロット別の結果抜粋



プロット43001

特徴：標高298mの平坦尾根に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：

「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 現状維持



プロット43002

特徴：標高232mの山腹凹斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：

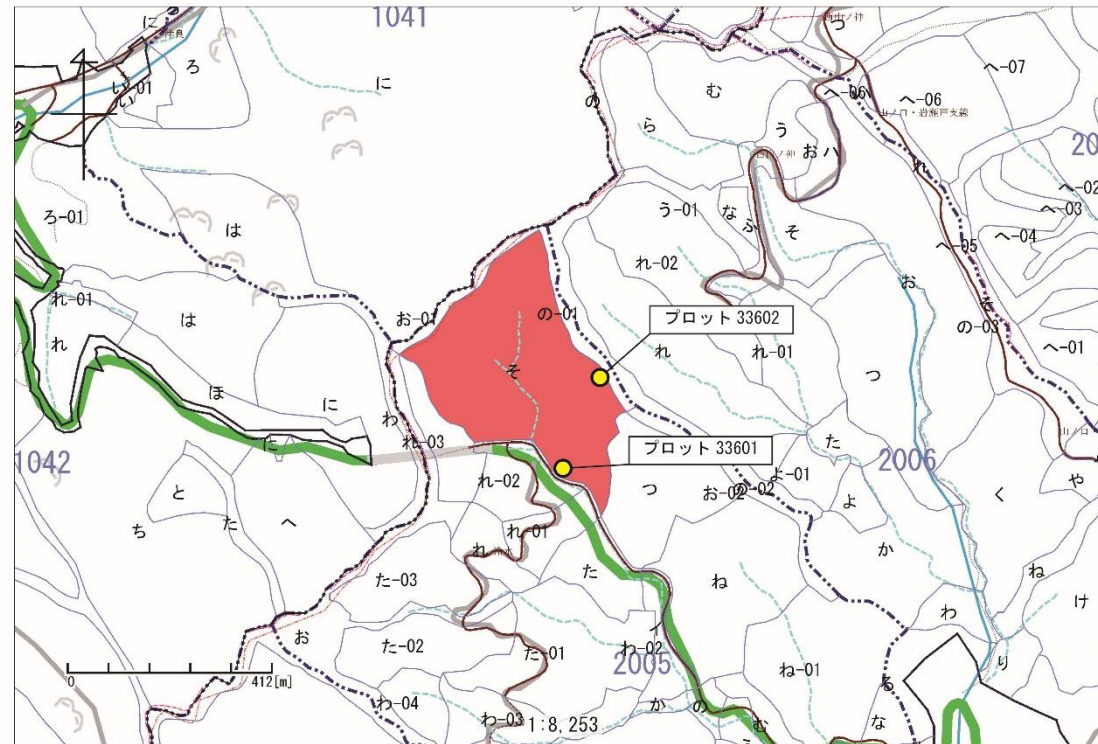
「0：ほとんどない」という安全なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は増加
- ・ 現状維持

冷水林木遺伝資源保存林

(新名称：冷水イチイガシ等遺伝資源希少個体群保護林)

保護林の概況	鹿児島県北部の伊佐市の西部に位置している。林相は林齢90年生以上の天然生の照葉樹林で、タブノキ、アカガシ、ツブラジイ、イスノキ、イチイガシ、シラカシ等が生育しており、川内川上流域に分布する暖帯林の代表的林分である。
保護・管理を図る対象	イチイガシ、アカガシ、シラカシ、イスノキ、タブノキ、ツブラジイ等
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	11月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・保護対象樹種イチイガシ、イスノキ、タブノキが確認され、確認本数及び材積に増加が見られた。・保護対象樹種のアカガシ、シラカシ、ツブラジイは確認されなかった。・保護対象樹種の後継個体としてイスノキとタブノキの生育が確認された。・気象害や病虫害は確認されていない。・2プロットともに確認本数及び材積に増加が見られた。・シカによる林相被害レベルは、1から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才、鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット33601

特徴：標高341mの山脚堆積面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット33602

特徴：標高419mの山腹凹斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：

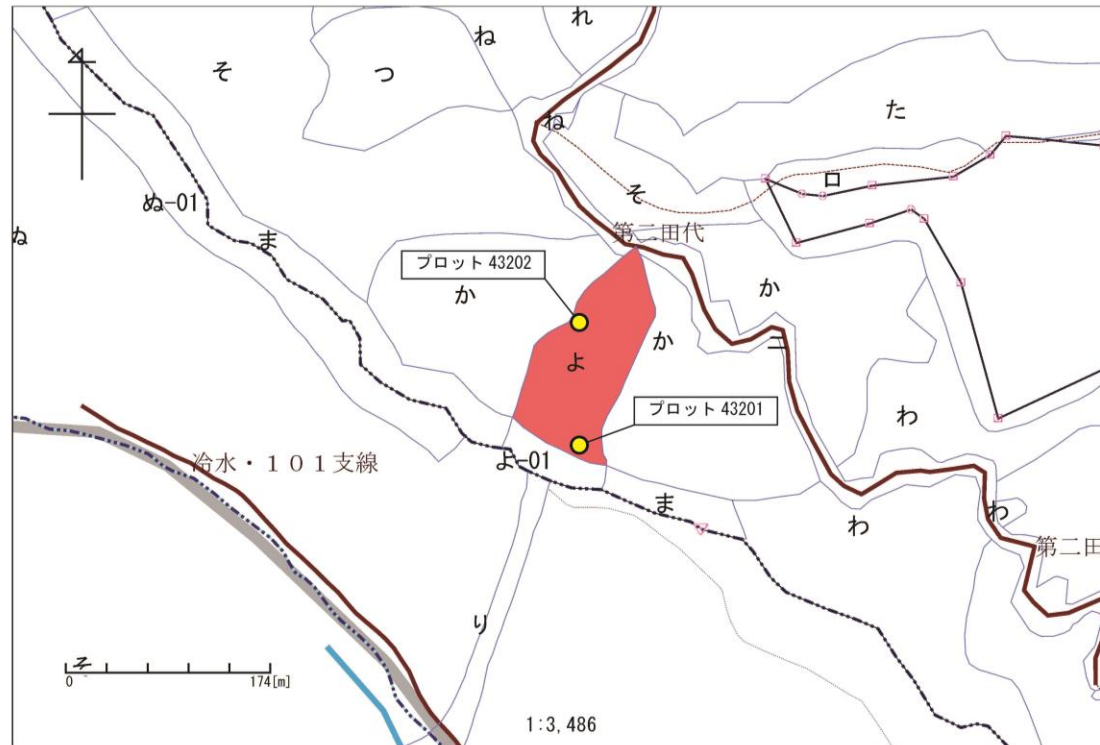
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少

冷水植物群落保護林

(新名称：冷水サツマシダ等希少個体群保護林)

保護林の概況	鹿児島県伊佐市の西部に位置し、標高300～350mの北東向き傾斜地の低山地帯である。林相は、シイ・カシ類を主体とする広葉樹林分で暖帯林の代表的林分である。
保護・管理を図る対象	サツマシダ等
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	11月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ 保護対象樹種のサツマシダはプロット43201で25株、プロット43202で11株確認された。・ 気象害や病虫害は確認されていない。・ 2プロットともに材積に増加が見られた。・ シカによる林相被害レベルは、1～2から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・ 確認されたサツマシダへのシカによる食害は確認されず（現時点ではシカは食べないとされる）、生育状態は良好であった。また、その他の希少種としてオトコシダやラン科植物が確認された。 現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。・ サツマシダへのシカの食害など直接的な害が生じていないが、林床の乾燥化による本種への影響が懸念される。
保護・管理案	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。・ サツマシダ保護のため小規模な植生保護柵設置等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： オ. 鳥獣・病虫害被害が顕著にある保護林 ウ. 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット43201

特徴：標高332mの山腹凹斜面に位置するツクバネガシ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数に変化ないが材積は増加
- ・草本層の植被率は減少



プロット43202

特徴：標高276mの山腹平衡斜面に位置するツクバネガシ群落

シカ被害程度：

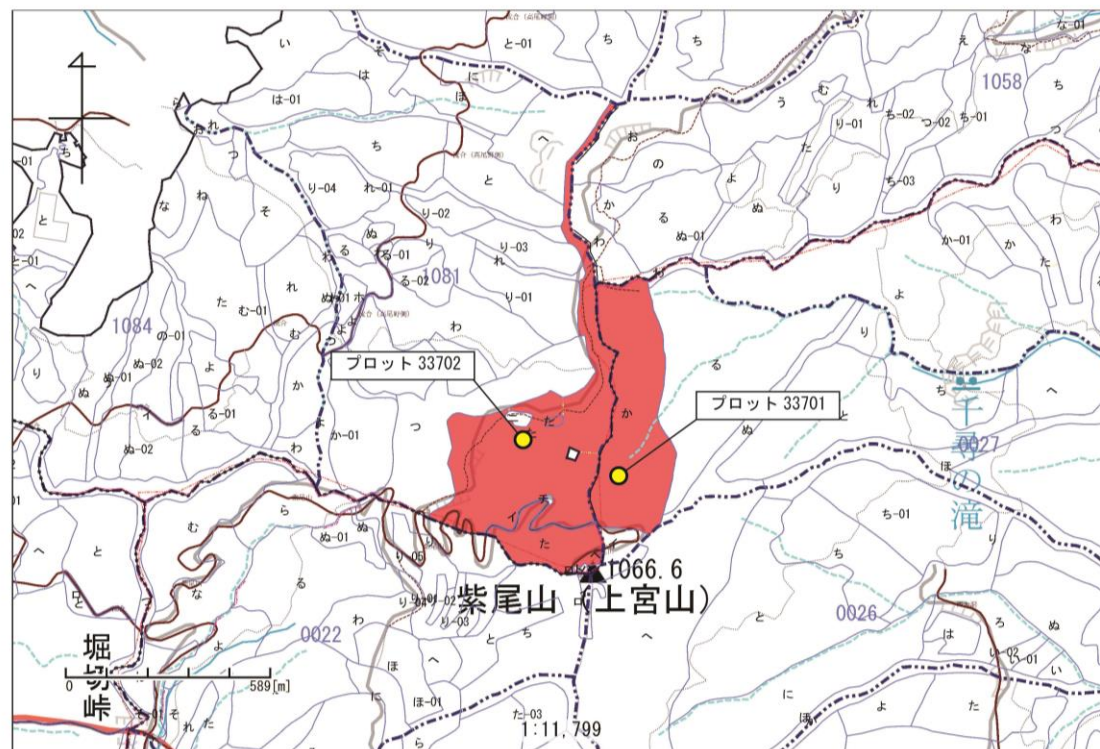
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・確認本数が減少したが材積は変化なし
- ・草本層の植被率は減少

紫尾山林木遺伝資源保存林

(新名称：紫尾山ブナ等遺伝資源希少個体群保護林)

保護林の概況	出水市とさつま町界にある紫尾山（1,067m）の山頂の一角で、頂上より900m付近までの北側に位置している。林相は、針広混交林の天然林で、アカガシ、ウラジロガシ、アカシデ、ブナ、モミ等がある。
保護・管理を図る対象	ブナ、アカガシ、アカシデ、ウラジロガシ、モミ類
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	11月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ 保護対象樹種のブナ、アカガシ、ウラジロガシが確認され、確認本数及び材積に増加が見られた。・ 保護対象樹種のアカシデとモミは確認されなかった。・ 保護対象樹種の後継個体としてアカガシ、ウラジロガシ、モミの生育が確認された。・ 気象害や病虫害は確認されていない。・ 2プロットともに確認本数及び材積に増加が見られた。・ シカによる林相被害レベルは、2から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<ul style="list-style-type: none">・ 確認された保護対象樹種の本数及び材積は増加しており、後継個体の生育も確認された。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲によるシカの個体数管理を継続する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： 才、鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット33701

特徴：標高961mの山脚平衡斜面に位置するアカガシ群落

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少



プロット33702

特徴：標高937mの山腹平衡斜面に位置するアカガシ群落

シカ被害程度：

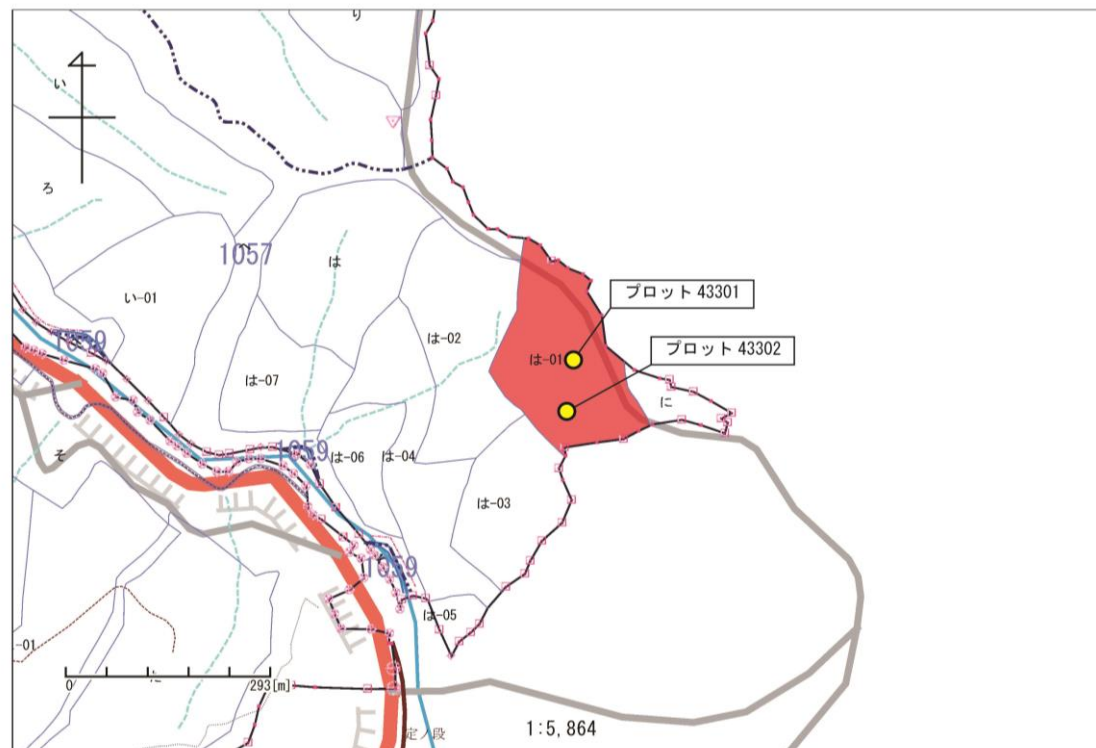
「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少

樋之谷植物群落保護林

(新名称：ヒノタニシダ希少個体群保護林)

保護林の概況	出水市とさつま町界の石堂山（標高600m）の北西に位置する。林相は、スギ、シイ・カシ類の混交林である。
保護・管理を図る対象	ヒノタニシダ等
調査プロット	既存調査プロット2箇所
調査時期	11月
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 毎木調査・ 植生調査・ 定点写真撮影・ シカ被害調査



結果総括

調査結果概要	<ul style="list-style-type: none">・ 保護対象樹種のヒノタニシダはプロット43301で28株、プロット43302で10株確認された。・ 気象害や病虫害は確認されていない。・ プロット43302で確認本数及び材積に増加が見られた。・ シカによる林相被害レベルは、2から3へと過年度より高くなっている。
現状評価案	<p>・ 確認されたヒノタニシダへのシカによる食害は確認されず、生育状態は良好であった。現状は維持されていると考えられ、保護林の要件を満たしていると評価される。しかし、ヒノタニシダはプロット43302において個体数が少ないことから保全が必要である。</p>
保護・管理の方針案	<ul style="list-style-type: none">・ 捕獲によるシカの個体数管理等の対策を検討する。・ ヒノタニシダ保護のため小規模な植生保護柵設置等の対策を検討する。
モニタリング間隔案	5年 ※選定理由： オ. 鳥獣・病虫被害が顕著にある保護林 ウ. 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

プロット別の結果抜粋



プロット43301

特徴：標高521mの山腹平衡斜面に位置するスギ・ヒノキ・サワラ植林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は減少
- ・ 草本層の植被率は増加
- ・ 小規模な植生保護柵設置による希少種の保護や下層植生の回復などの対策が必要



プロット43302

特徴：標高385mの山腹平衡斜面に位置するスギ・ヒノキ・サワラ植林

シカ被害程度：

「3：森林の内部構造が破壊」という危機的なレベル

- ・ 確認本数及び材積は増加
- ・ 草本層の植被率は減少
- ・ 小規模な植生保護柵設置による希少種の保護や下層植生の回復などの対策が必要